黒木の梅とルリタテハ

春

「御苑モデル」の風景を歩く

塚本　珪一

春爛漫！日本列島の北方では、春が一度にやってくるが、御苑の春もそうだ！

御苑のあちこちに、いろんな春がやってくる。そして、各所で次々に進行を始め、うっかりすると、小さな春を見落としてしまう。御苑は生きものたちの「いのちの園」。「春はあけぼの」と、言っているうちにも、春の風景は日々・刻々と変化していく。そう、御苑の春は「いのちがいっぱいだ！」。

御苑南西部の宗像神社の北にひっそりと咲く紅梅と白梅もうっかりすると見落としてしまう。紫・白モクレンのみごとさ、梅林の枝にはアオバトも羽を休める。

紫宸殿を望拝するあたりに御苑銘木「黒木の梅」が花を開く。ある日、私は「黒木の梅にいっぱいメジロが来ています」という情報をもらった。しかし、メジロはいなくてルリタテハが繊細な花弁の重なりのあいだを飛ぶ。ルリタテハは瑠璃色の光を放つ。昆虫には瑠璃色の光を放つ種が多い。なぜ、と考える。ルリタテハは春の光のなかに似合っているからすばらしい。

近衛池のしだれ桜の緞帳は、開演を待つかのように、静かに風で揺れている。この「桜の園」の枝垂れの足下に咲く小さなタンポポの花群れも忘れないようにしなければ…そう、どこかに臘梅の黄色があったよ。

昔はなかったが、「出水の小川」も御苑の流れとして爽やかな風景だ。大きなクスの木を背景に八重桜・御衣黄桜があって、春の終わりを彩る。花の下で人々は、その桜花の品評会を始める。春型の可愛いアゲハチョウも飛ぶ。時にアゲハのことをナミアゲハと呼ぶ。その呼称はあまり使いたくない、失礼だ！

もうすぐ、御苑の各所のクスの木の周りを雷チョウの別名のあるアオスジアゲハも飛ぶだろう。

春にしか現れない小さなツマキチョウは実に可憐なチョウで、見つけると、「春だ！」と、嬉しくなる。ツマは端で、雄の前翅の先端に橙色紋がある。小さくすばしこいコツバメは小燕で、見つけにくい。翅表は明るい青色で、光を受け、消える。やはり、コツバメも光の魔術師だったのだ。

四月初め、御苑東の森を歩く。翅にハート模様のシロテンコバネナミシャクが松の根元に静かに翅を休める。アオサギも営巣のために出逢う。

御苑の古いチョウの目録にはツマグロキチョウの名がある。そのチョウを最近ではまったく見ることがない。このチョウのように「いたはずだったが？」、いなくなった例もある。もちろん、御苑には見られなかった、ジャコウアゲハ、ホシミスジ、スミナガシ、ミズイロオナガシジミなども「初めまして」とやってきた。遊びに来たのかな？おかげで御苑の「聖域度」も高くなる。

林内・地表にはキノコが並ぶ。お伽の国の魔法使いだ。そのトガリアミガサダケは日々刻々に姿を変える。魔法使いたちは、イチョウ、カツラの付近にロンドで踊る。

私は染殿井のヤマブキのそばのテーブルで御苑の生きものたちの構造・モデルについて考える。粘菌学の南方熊楠先生の「マンダラ構造かな」、いや、自然学者の今西錦司先生の「生物全体社会だ」と、思い巡らす。そして、御苑の春は、「いのちのマンダラの風景の原点」と、結論づける。

そして、春は進みゆく。

（京都自然観察学習会）

枝を運ぶアオサギ

シロテンコバネナミシャク

「京都御苑歴史研究会」について

坂本　孝志

四季それぞれに美しいたたずまいを見せる国民公園京都御苑は、市民のいこいの場であるとともに、平安時代から現代へつづく数多くの史跡が残る〝歴史集積空間〟です。

NPO法人京都観光文化を考える会・都草（以下都草）は、この京都御苑の歴史を学ぶために昨年（平成二十四年）十月に「京都御苑歴史研究会」を立ち上げました。都草会員三百名あまりのうち約六十名が研究会に参加して毎月二回程度の勉強会を行っています。また六月頃からは京都御苑内の「歴史散策ツアー」を実施する予定で現在、市民や観光客の皆様へお配りする京都御苑歴史散策マップ等の作成準備をすすめています。

悠久の歴史とロマンを秘めた京都御苑の中を、皆様とご一緒に楽しく巡りたいと思っています。勉強会は歴史だけではなく、植生や野鳥などの自然についても京都御苑に関わる方々からお教えいただきながら、皆様に豊かな自然につつまれた京都御苑の魅力をお伝えできればと願っています。

（NPO法人京都観光文化を考える会・都草　理事長）

京都御苑歴史研究会発足式の様子

近衛邸跡の糸桜（枝垂れ桜）

宮川　恭子

京都御苑の北西部にある近衛邸跡は、三月下旬から四月上旬にかけての桜の季節には花をめでる人たちで賑わいます。

五摂家の一つであった近衛家は、明治時代の初めまではこの地にあり、池の西側に大きなお屋敷がありました。

近衛邸跡には、江戸彼岸の枝垂れである糸桜が植えられています。京都御苑の桜の中では早い時期に開花する桜で、つぼみの頃は桃色の濃い色なのに、それが少しずつ開いていくと、やがてピンク色のかわいい花が咲きます。枝垂れに細かな薄紅色の花が咲き、それらがそよ風にゆらゆらとゆれる様は、まさに糸桜の美しさが最高潮に達したひとときです。

京都御苑には、他にも車返桜、山桜、出水の小川の里桜、閑院宮邸跡前の大島桜、学習院跡の桜松など三月下旬から五月上旬まで楽しめる桜スポットがあります。（都草　会員）

近衛邸跡の糸桜

京都御苑ニュース

自然はわれらを　われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発　行　人
〒602-0881　京都市上京区京都御苑３番地
☎075-211-6364
一般財団法人　国民公園協会
京　都　御　苑　　加藤博之

編　　集
白川書院

監　　修
環境省京都御苑管理事務所

本紙は再生紙を使用しています。

催　事　案　内

■平成25年京都御苑自然教室

初心者の方を対象とした自然教室の今後の予定は、下記の通りです。都市の中で貴重な緑をもつ御苑で、春の自然を観察しましょう。

春の自然教室 “春の御苑にふれよう”

4月21日（日）9：30～12：00

主　催　環境省京都御苑管理事務所　TEL 075(211)6348
一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
TEL 075(211)6364

指　導　京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。

内　容　春の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。

集合場所　京都御苑　閑院宮邸跡前
（京都御苑南西角間ノ町口）
（地下鉄「丸太町駅」
1番出口から徒歩3分）

受付時間　当日　9：00～9：20

参 加 費　保険料100円

そ の 他　筆記用具をご持参下さい。
手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があると便利です。

＊以降の自然教室予定

夏の自然教室 “夏の御苑にふれよう”

平成25年7月21日（日）9：30～12：00頃

新緑のトンボ池一般公開

5月24日(金) ～ 26日(日) 9:00～11:30

京都御所春季一般公開

4月4日(木)～4月8日(月)

入場時間　9:00～15:30
入口：宜秋門(ぎしゅうもん)
出口：清所門(せいしょもん)

清所門の最終退出時間は午後４時 15 分
照会先：宮内庁京都事務所　TEL：075(211)1211

京都迎賓館参観のご案内

京都迎賓館では、例年8月頃に参観を行っています。
京都迎賓館は、海外からの賓客を心をこめてお迎えし、日本の歴史、伝統、文化への理解を深めていただくことを目的とする国の迎賓施設です。
迎賓施設としての意義や、伝統的技能がいかされた京都迎賓館の価値を多くの方々に知っていただくため、公募により、1日当たり1,300名、10日間で計13,000名の方の参観を予定しています。

申込方法等の詳細は5月中旬以降に京都迎賓館ホームページをご確認ください。

■内閣府京都迎賓館ホームページ
http://www8.cao.go.jp/geihinkan/sankan/kyoto_sankan.htm
（「京都迎賓館」で検索してください。）

※国賓等の接遇などにより、参観期間や募集期間を変更する場合があります。

「閑院宮邸跡」見学

京都御苑南西角の創建以来の場所に建つ、「閑院宮邸跡」。収納展示室では、京都御苑の歴史や自然の資料が展示されています。苑内散策の折に是非お立ち寄り下さい。

収納展示室　午前９時～午後４時　入場無料
休館日／月曜日（月曜日が祝祭日の場合は開館）、年末年始

春の自然教室「きのこ」観察のポイント

佐野　修治

アミガサタケの仲間　花梨（かりん）の花が散る頃に発生

「春一番」が苑内に吹く頃、御苑の草地には既に春を呼ぶ「早春のきのこ」が可愛い顔を出しています。春夏秋冬一年中観察できる種類もありますが、春しか発生しない「季節限定」のきのこはこの時期を逃すと観られません。

その代表的なきのこが春を告げる**アミガサタケの仲間**です。トップランナーはチャコールグレーの頭が尖った編み笠に白っぽい柄が目立つ**トガリアミガサタケ・尖り編み笠茸**です。早春から春本番へ気温の上昇に従って編み笠の部分がベージュ色の**アミガサタケ・編み笠茸**とバトンタッチします。いずれも目立ちませんが苑内の草地に発生します。

同じく草地に出る**ハラタケ・原茸**は成熟するとカサの裏のヒダが薄いピンク色から次第にベージュからブラウン、最後には黒褐色へと変色します。スーパーで売っているマッシュルームの仲間です。時々苑内の芝生地にフェアリーリング（妖精の輪）と呼ばれる円（菌輪）を描いて発生します。

紅色をした可憐なきのこ**ニオイコベニタケ・匂い小紅茸**は手にとって匂いを嗅ぐとカブトムシ臭がします。同じ紅茸の仲間で**ドクベニタケ・毒紅茸、カワリハツ・変り初**なども草地や苔地に顔を出し始めます。

ベニタケの仲間
緑の草地や苔地に発生

春の木、椿の花が咲く頃に樹下の落ち葉を静かに掻き分けると、フワ～と白い煙が立ち上がります。**ツバキキンカクチャワンタケ・椿菌核茶碗茸**の胞子が飛んだのです。昨年落下した花の花序から発生する直径三ミリ～十五ミリ程度の小さなお碗型のきのこです。

また、苑内の貴重な関西タンポポが花開く頃、バラ科の樹下には**ハルシメジ・春占地（シメジモドキ・湿地擬）**の仲間が緑の草むらに隠れて成長してきます。十数年前は大量に出ていましたが近年は確認さえ困難な発生量です。

そして、「冬虫夏草」の一種**オオセミタケ・大蝉茸**も春を待って成長するきのこで、アブラゼミやクマゼミなどの幼虫が生息する環境ポイントを注意深く観察すれば運良く発見出来るかも知れません。

一九九三年十一月十四日に発見したオオセミタケを継続観察したところ、冬の間は変化無く、早春の気温上昇を待って成長を再開、無事胞子放出までの役目を終えて横たわったのを確認したのは一九九四年六月二十日でした。観察記録は年末年始を挟んで秋から冬、春から初夏に至る七ヵ月と六日間になり、なんと**二百二十日**以上もの長い月日を生き続けていた事になります！　貴重な記録になりました。

ハルシメジ（シメジモドキ）の仲間
関西蒲公英（かんさいたんぽぽ）が花開く頃に発生

菌類である「きのこ」は目立たない存在ですが、縁の下の力持ち的な役割を持つ自然界では無くてはならない大事な生き物です。生物界での**動物は消費者、植物は生産者、菌類（類）は還元者**（生物の三界説）と呼ばれ、健全な自然にとっては三界のバランスが重要です。

国民公園京都御苑は全ての生き物は採取禁止です。「とって良いのは写真だけ、残して良いのは足跡だけ！」ルールを守って楽しく学習させて頂き良い思い出を残しましょう♪

（京都自然観察学習会）

御苑の花暦

和　名	開　花　期	主に見られる場所
ウ　メ	2月中旬～3月中旬	梅　林
モ　モ	3月中旬～4月中旬	桃　林
イトザクラ	3月下旬～4月中旬	近衞邸跡周辺
ヤマザクラ	3月下旬～4月中旬	苑内全域
サトザクラ	4月中旬～4月下旬	出水の小川付近

会　員　募　集

一般財団法人 国民公園協会　京都御苑

年会費　●普通会員　1,000円以上
●賛助会員（会社・団体）　10,000円以上

会 員 へ の 特 典

1. 本会発行物をそのつど送付します。
（御苑ニュースは会費収入で発行されています。）
2. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。
（ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。）

■申し込み、問い合わせ先
一般財団法人 国民公園協会　京都御苑
住所　京都市上京区京都御苑3
〒602-0881　TEL 075(211)6364